



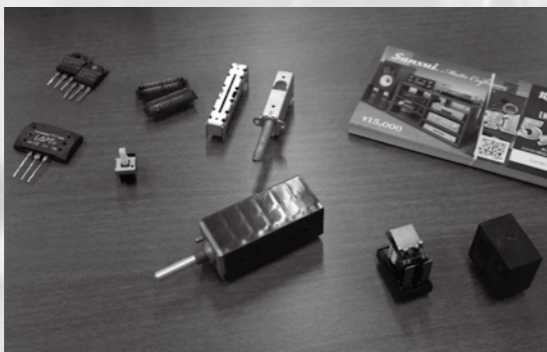
Sansui (オーディオ)に関する事業を取り仕切る植竹和芳氏。もともとメーカーで開発をされていたばかり、技術力は折り紙付き。またユーザーの気持ちも理解してくれる頼もしい存在である



修理中の機器はやはりSansuiが多い。Sansuiがサービスセンターを整理するときに引き継いだ資料やパーツ、ドナーなどが、現在ではとてつもないお宝となっている。純正パーツによる修理がありがたい



こちらは頻繁に使うものや小さなパーツが収められているラック。サービスマニュアル、カタログなども揃っている。とはいえパーツの中には純正品が製造終了したり、払底しつつあるという



手に入らなくなったパーツは分解して修理したり、代替パーツを、純正パーツとスペックだけでなく実際に音声信号を流して聴感テストを行い選定しているそうだ。高いパーツが良い、とは限らないようだ

カー(残念ながらSansuiではないが)で開発を行ってきた人物だけに、オーディオ機器に対する造詣がとてつもない。修理を依頼してきたユーザーの気持ちも良く分かっている。ツボを押さえた修理を行ってくれるのだ。

公式レストアモデルたち

植竹氏の加入で大きく変わった点かもうひとつある。それはレストアモデルの販売だ。

先にドナー機器のことは記したが、これまでに必要に応じて雑然とした倉庫から探してくるだけだったそうだ。し

かし植竹氏はこのドナーやパーツ倉庫を宝の山だと感じたという。

植竹氏は倉庫を徹底的に整理し、そこに眠っていたドナーや外装パーツを掘り出した。倉庫にはちよつと手を入れれば、まるで新品のように蘇りそうなドナーだったり、新品のフロントパネルなどが多数保管されていたのだ。ちなみにドナーは、Sansuiが現役の時代から何らかの事情で保管されていたもの、あるいは修理を依頼されたもの、あるいは修理の結果、ユーザーが修理不要と判断しIDKに譲ったものやIDKが買い取ったものもあるという。

Sansui・ユーザー最後の砦IDKがなんと『ふるさと納税』に登場!

IDKに用意されているショールーム兼試聴スペース。試聴用としてSansuiのシステムに加え、もちろんJBLも用意されている。写真右側の棚に並んでいるのはレストア済の販売されている機器たち。どれも非常にキレイだ

最後のSansui・サービスセンター

かつて日本を代表するアンプメーカーとして絶大な人気を誇ったSansui(山水電気)。最後のモデルとなったAU-11 Living Imageが発売されてから約四半世紀が経っている。それでも日本に限らず、世界中で根強い人気を保っていることこそ、Sansuiのアンプの実力を証明していると言える

Sansui、最後のサービスセンターIDK。昨年に長年メーカーのエンジニアとして活躍されてきた植竹氏が加入し、修理のクオリティが大幅にアップ。さらに純正レストア品の販売も拡充されるなど、とても元気だ。そのIDKがなんとふるさと納税の返礼品に登場するという。いったいどうゆうことなのか、Sansuiのサービスセンターの近況とともにお話をうかがってきた。

写真と文・澤村信(ステレオ時代)

だろう。

そのSansuiの公式なサービスセンターがまだ残っているのをこ存じだろうか。現在1か所だけ存在しているサービスセンターが茨城県つくばみらい市にあるIDKだ。

IDKはSansuiがまだアンプを販売していたころからサービスセンターとして業務をおこなっていたため、公式なサービスマニュアルや純正パーツが豊富に在庫されているのだ。

それだけではなく、広大な倉庫にはSansuiが現役だったころからキープされているドナー(パーツを抜き取るための機器)も豊富に残っている。

ただ以前は電子機器の修理・整備ができるものの、2003年からSansuiの修理事業を引き継いだ時点では、総合家電の修理スタッフが対応していた。それでも20年以上の歴史のなかで独自にオーディオ修理のノウハウも構築して来ており、純正パーツをサービスマニュアルにしたがって直してもらえないのは貴重な存在ではあったのだが。

しかし、数年前に植竹和芳氏が加入してからというもの、修理のクオリティというか、機器に対する『愛情』が格段にアップしたように思う。というのも植竹氏はもともとオーディオメー

「このパネルは新品なんですよ」と植竹氏。ご存じの方も多いと思うが、AU-11以降の「07」シリーズに使われていた光沢あるフロントパネルは、塗装で光沢を出しているのではなく、水研ぎという工程で艶が出されたもの。キズや塗装剥げが付きやすいデリケートなものだ。こんな美しいパネルを見たのは現行品だった時代以来ではないだろうか。Sansuiのアンプを中古で



IDKの飯塚向平社長。バイタリティーがあり明るい社長だが、植竹氏の加入以降は、サンスイ（オーディオ）に関する事業はすべて植竹氏に任せているそうだ。今回の返礼品は飯塚社長による決断だった



つくばみらい市のふるさと納税推進チームの主幹である飯島直樹氏。農産物が多い返礼品の中では異色と言えるIDKのクーポンだが、「IDKがつくばみらい市にあったのはラッキーだった」と語る。ぜひ成功してほしい



これが実際に返礼されるクーポン。ふるさと納税を行うとこのクーポンを受け取れる。なお翌年の控除を受けるには12月31日までの寄付が必要になる。またクーポンには使用期限もあるので、寄付のタイミングには注意

「あるとき（つくばみらい市の）市長
向平社長に伺った。IDKの飯塚
とこころでなぜIDKのクーポンが返
礼品になったのだろう。IDKの飯塚
「あるとき（つくばみらい市の）市長
向平社長に伺った。IDKの飯塚
とこころでなぜIDKのクーポンが返
礼品になったのだろう。IDKの飯塚

機器の修理依頼・相談があります」と
植竹氏が言うように、サンスイ以外も
少なくないそうだ。そういえば以前伺
った時にはバイオニアの三点セットな
ども修理されていた記憶がある。
とはいえ、やはりIDKの強味はサ
ンスイだ。これを機にIDK自慢のサ
ンスイのレストアモデルでサンスイ・デ
ビューというのは多いにアリだ。

から「飯塚さんの会社ってオーディオ
の修理などもやっているんだって？」と
連絡が来まして、ふるさと納税の返礼
品として協力してくれないか、と。訊
けばもともと市長とは面識があったぞ
うだが、市長はIDKの業務内容まで
は知らなかったそうだ。飯塚社長も「そ
ういうことなら」と協力することに決
め、とんとん拍子で話が進んだという。
飯島氏によれば「返礼品のアイディ
アは常に募集しており、市役所内から
提案があることも多々あります。今回
は、もともと市役所の職員にオーディ

オマニアがいて、「こういうのはど
う？」と提案がありました。それを知
った市長が飯塚社長にご相談した、と
いうのがきっかけだったのです」。
ちなみにそのオーディオオマニアの職
員もサンスイ・ユーザーとのこと。そ
んな職員の方がいらっしやったのは、
私たちにとってもラッキーだった。
IDKのふるさと納税の使い方
ふるさと納税はポータルサイトから
申し込むことになるが、サイトによっ
て返礼品のラインナップが違う。今回

のIDKのチケットが用意されている
のは「ふるさとス」というサイトになる。
検索サイトで「ふるさとス」と打ち込
めばすぐに出てくるはずだ。
このポータルサイトの「使えるマチ」
というボタンをクリック。その後「茨
城県「つくばみらい市」を選ぶと返礼
品の一覧が出る。この中から「株式会
社IDK」をクリックするとクーポン
を選ぶことができる。
なお確定申告の不要な給与所得者の
方であれば、寄附をする際にワンスト
ップ特例を使用するところをチ
ェックすれば、寄附の証明書と一緒に
ワンストップ特例の申請書が届くので、
これを記入のうえつくばみらい市に返
送すれば、翌年の住民税から控除され
ることになる。このあたりの詳しいこ
とはポータルサイトで確認していただ
きたい。
なおご自分の控除を受けることがで
きる上限額以上の寄附を行うと、実質
的に損してしまう場合がある。上限額
の目安もこうしたポータルサイトでで
るので、まず確認してから寄附に進
むと良いだろう。
いずれにせよ、このオーディオ・マ
ニアのためのふるさと納税、使用しな
い手はない。

サンスイを直すなら、 買うならまずIDK

探している人は、ぜひ一度現物を見て
ほしい。
サンスイの最後の砦とも言うべきI
DK。ファンに取ってはかけがえのな
い存在だ。すでにサンスイを持つてい
る人なら、修理を考えた時はまずID
Kに相談するのが王道だろう。また中
古でサンスイを探している人も、とり
あえずIDKの在庫をチェックするべ
きだと思う。
そんなサンスイ・ファンに朗報だ。

なんとIDKがあるつくばみらい市で
「IDK様で使えるクーポンを、ふるさ
と納税の返礼品として用意しました」
と教えてくれたのは、つくばみらい市
役所のふるさと納税推進チームの飯島
直樹氏だ。
ちなみにふるさと納税はすでに使わ
れている方も多いと思うが、居住地の
自治体に支払うべき住民税や所得税の
一部を、応援したい他の自治体に寄附
することで、住民税の減額（控除）や
所得税の払い戻し（還付）を受けられ
るというもの。控除・還付額には上限
があり、年収や家族構成などによつて

異なる。たとえば、控除・還付を受け
ることができる上限額が4万円の場合、
5万円を寄附（ふるさと納税）しても、
控除・還付されるのは4万円までで、
残りの1万円は実質的に寄附となる。
また、2000円は自己負担となるた
め、その点も考慮しておく必要がある。
しかしふるさと納税がブームになっ
ているのは、単に税金の控除・還付を
受けられるからというだけではない。
ふるさと納税では、自分が住んでいる
自治体以外に寄附した場合のみ返礼品
を寄附者に返礼することが認められ
ているのだ。
飯島氏によれば「返礼品は寄附額の
3割までと定められています。そこで
IDK様と相談し、5万円の寄附に対
して1万5000円のクーポンを返礼
できるようにしました」という。
つまりつくばみらい市にふるさと納
税を5万円行えば、自己負担額の
2000円を除く4万8000円が住
民税や所得税から控除・還付されるう
え、IDKで使える1万5000円のク
ーポンがもらえる。つまり1万5000
円は丸ごとお得になっているのだ（正確
には自己負担額2000円を除いて、
1万3000円のお得）。どうせ払う住
民税や所得税であればこれはふるさと

納税をしない手はない。
サンスイ以外でもOK
サンスイ・ファンあるいはサンスイ
ユーザーであれば迷わず入余地のないシ
テムだが、じつのところIDKが修理
できるのはサンスイだけではない。「メ
ーカーサービスがすでに終了している



上のモデルはAU-α 607DR。1991年に登場したモデルで、例の水研ぎパネルを使っている。下はAU-α 607MOS PREMIUMでこちらも1991年に発売された限定モデルだ。どちらもコンディションが素晴らしいが、フロントパネルはいずれも新品パーツが取り付けられているとのこと。他では手に入らない逸品だ

ドナーが並ぶ倉庫のラ
ック。どれも丁寧に
手入れされている。
二層構造の倉庫は医
療機器も備え、初
手前にはなんと60
7であるAU-607
が並んでいる

